

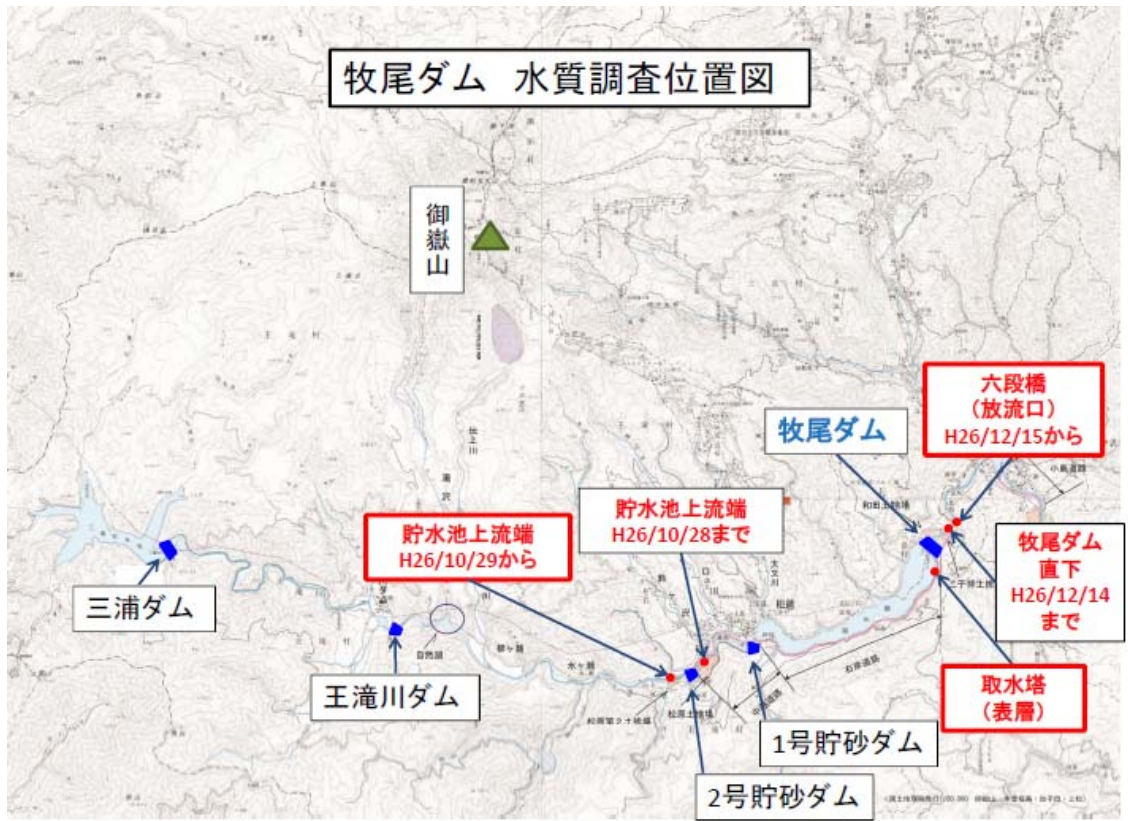
第6回御嶽山噴火に伴う木曾川上流域水質保全対策検討会

牧尾ダムの水質調査結果について

平成27年9月25日

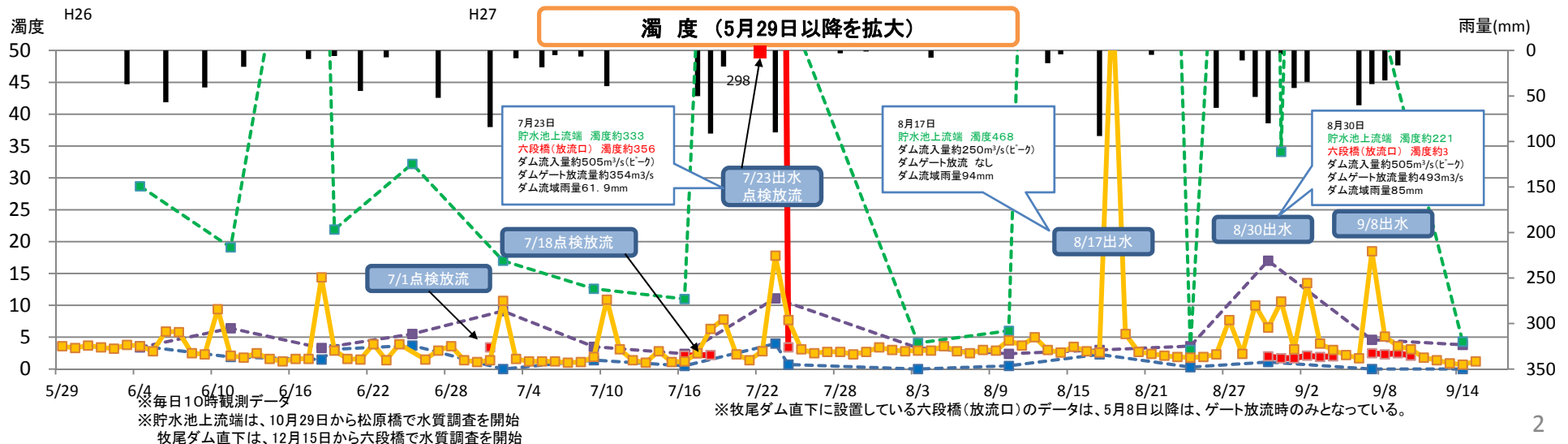
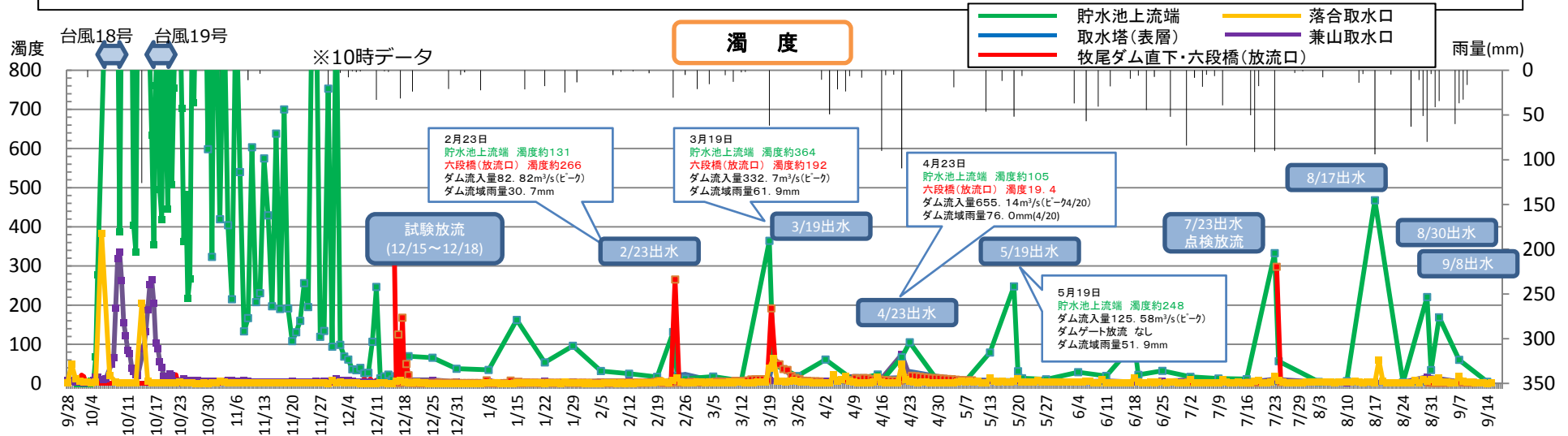
(独)水資源機構中部支社

牧尾ダム他の水質調査位置図



牧尾ダム他の水質調査結果 一濁度一

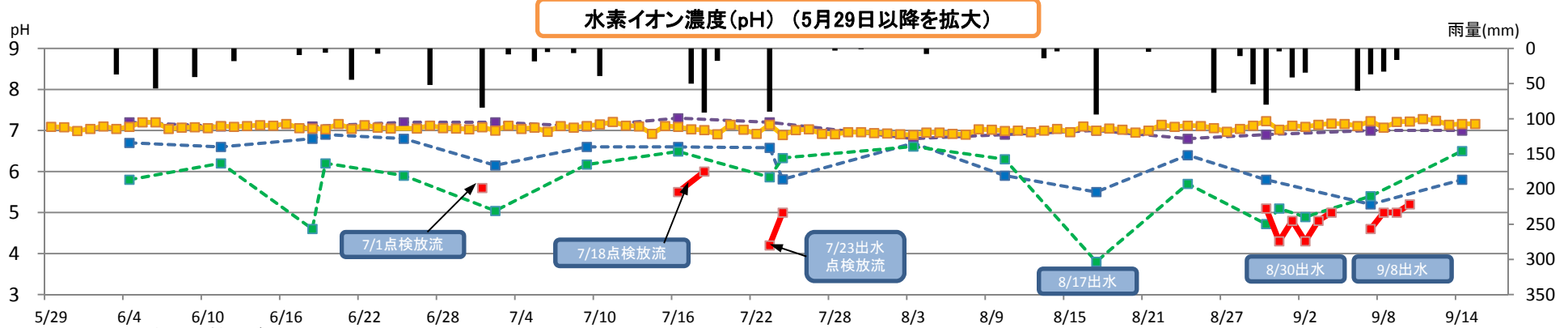
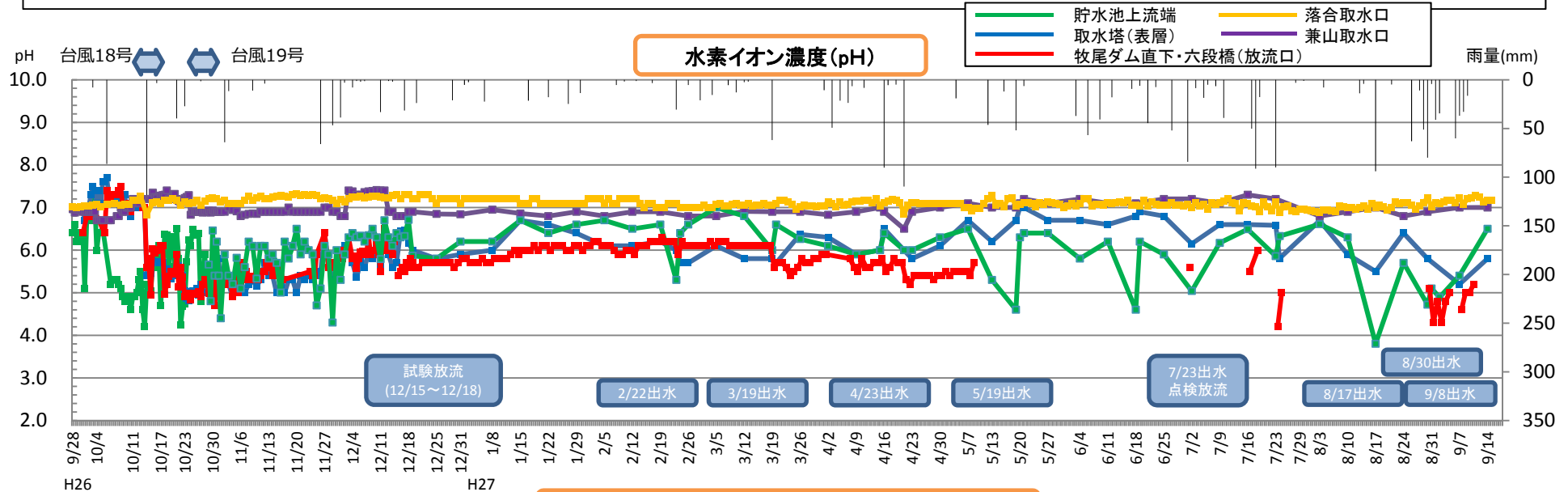
- 前回検討会(5月28日)以降、貯水池上流端の濁度は出水時に一時的に高い値を示すものの、牧尾ダム直下・六段橋の濁度は7月23日出水を除いて濁度20程度以下であり、下流の落合取水口や兼山取水口では取水に影響を生じていない。
- 牧尾ダム直下・六段橋の濁度は、7月23日出水の点検放流時において一時的に最大濁度356(9:30時点)を観測したが、点検放流中に濁度20(12:00時点)まで低下した。(資料3参照)



※貯水池上流端は、10月29日から松原橋で水質調査を開始
 牧尾ダム直下は、12月15日から六段橋で水質調査を開始

牧尾ダム他の水質調査結果 —水素イオン濃度(pH)—

- 前回検討会(5月28日)以降、貯水池上流端のpHは噴火直後と同様、環境基準値※であるpH6.5を下回る状況が続いている。牧尾ダム直下の六段橋では7月下旬以降、出水時において一時的にpH5以下となる傾向にある。
- 下流の落合取水口では、7月23日の出水時(資料3参照)を除き、取水に影響を生じていない。
- 8月30日からの出水では、流入水のpHが概ね5程度となり、ゲート放流中の牧尾ダム直下・六段橋のpHも4.3~5.1と低い値を示した。 ※環境基準値…公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準。木曾川本川は落合ダムより上流がAA類型で6.5~8.5が基準値。



※毎日10時観測データ
 ※貯水池上流端は、10月29日から松原橋で水質調査を開始
 牧尾ダム直下は、12月15日から六段橋で水質調査を開始

※牧尾ダム直下に設置している六段橋(放流口)のデータは、5月8日以降は、ゲート放流時のみとなっている。

結果のまとめ

- 定期的な水質調査結果から、牧尾ダム貯水池の流入濁度については、噴火直後の平成26年10月の台風18号、19号出水時に発生した濁度が最大で、その後、出水時の濁度ピークは下がりつつあり、これを上回る状況は発生していない。
- pHについては、牧尾ダム貯水池上流からの流入水に依然pH6.5を下回る傾向が続いており、特に出水時にはゲート放流水がpH5.0を下回る等、一時的な低下が見られる。一方、他の流域の影響を受ける落合取水口や兼山取水口など木曾川本川では、環境基準値を下回る状況はほとんど発生していない。
- しかし、本調査結果は、噴火後1シーズンの結果であることから今後も継続して水質状況を把握していく必要があると考えられる。